

うとする支持的風土の学級をつくる  
ことが大切であると考える。

② いじめに関する教師の意識や取  
り組み方を把握するために、文部  
省「いじめ二万人調査」の結果を  
示して、自由に意見を聞いた。

○ いじめを深刻化させる原因の一  
つとして、児童と教師の人間関係、  
信頼関係が希薄になってきている  
ことを指摘している。

○ 担任が積極的に取り組めば解決  
することが明らかになったが、「こ  
っそりいじめられるようになった」  
という事実を見逃すことはでき  
ない。

○ 自分のよさと同時に友達のよさ  
が分かったり、自分の言動がみん  
なに認められ集団への帰属意識や  
満足感が得られたりすれば、いじ  
め問題は少なくなるのではないか  
という意見には注目したい。

○ 授業の中で、児童一人一人に居場  
所が見つけられるような支援をす  
ることの大切さを痛感している。

(2) 改善策の立案と実践

○ アンケートと教師のいじめへの  
意識調査から次のような問題点を  
つかみ、教務主任の立場から改善  
策を立案して実践に移した。

① 問題点

○ 交友関係が学校生活に大きく影  
響している。

○ 学業不振が学校での大きなスト

レスになっている。

○ いじめの原因としては、学校や  
家庭でのストレス解消が考えられ  
る。また、傍観者の存在もいじめ  
を長期化させると思われる。

② 改善策

○ ストレスを少なくするために、  
授業中に自分の居場所が見つかる  
ような支援をする。

○ 集団への帰属意識や満足感が得  
られるように、自分や友達のよさ  
に気づくような支援をしていく。

③ 実践へのアプローチと援助

○ 職員全体協議会で「お互いのよ  
さを認め合う学習活動・一人一人  
のよさが発揮される学習指導」の  
ための手立てを紹介する。

○ 学年ブロック会に参加して具体  
的な支援をする。

④ 各ブロックの計画と実践

△低学年▽  
○ 各教科で児童のよいところを見  
つけて、クラスの全員で紹介する。

○ グループ学習の班長を意図的に  
指名する。

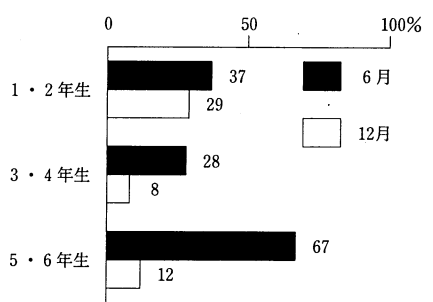
○ 帰りの会で、友達のよい点やが  
らばったところを発表させる。

実践例・二年生

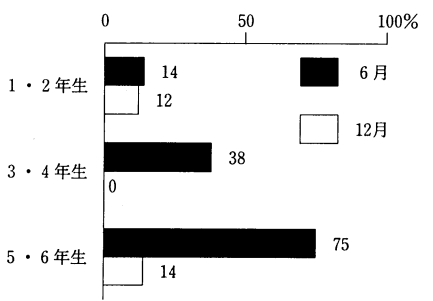
○ 一年生の時から友達の「よいとこ  
ろ発表」を続けているので、比較的  
交友関係がうまくいっている。しか  
し、発表する方もされる方も目立っ

資料 < 児童のアンケート結果 >

I. あなたは、いじめられたことがありますか。  
(12月：最近いじめられたことがありますか。)



II. あなたは、だれかをいじめたことがありますか。  
(12月：最近いじめたことがありますか。)



た児童になりがちなので、教師の方  
で意図的に問題傾向の見られる児童  
を称賛するように心掛けた。——B  
男は、幼稚園の頃からいじめっ子の  
烙印を押されていたが、帰りの会や  
授業などでよいところを称賛してき  
たところ、回りの見方も変わったが  
B男自身の変容が大きかった。同じ  
クラスのS男(発達遅滞児)の世話  
を進んでやり、クラスの友達から親  
切がらばり賞に選ばれた。

● 問題傾向の見られる児童につ  
いては、担任と情報交換をしな  
がら適切な支援の仕方を一緒に  
考えていった。

● B男のよさを引き出す担任の  
工夫や、それをみんなに伝える  
等のきめ細かな配慮を称賛し、  
継続していけるように励ました。

(1) 2 研究の考察  
児童のアンケートの結果  
いじめに関係のある項目につい  
て、六月と十二月を比較した。

(2) 全体的な考察  
教職員の意識が高まり、個々の  
児童を見つめて教育活動に当たっ  
てきたことで、児童のいじめの割  
合が減ってきた。

○ 改善策の手立てを紹介したこと  
で、実践への見通しが立った。

○ 学年ブロック会を設定し研究を  
進めたので、各学年の実態に合っ  
た手立てを講ずることができた。

六 今後の課題

これからも「分かる授業」の実践  
と「一人一人に居場所のある」学級  
経営に努めるよう教師集団を支援  
し、いじめを防いでいきたい。